

令和3年度行政事業レビューシート ( 法務省 )

<b>事業名</b>	民事基本法制の整備			<b>担当部局庁</b>	民事局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	不明	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	総務課	総務課長 村松 秀樹			
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>	民法, 民事訴訟法, 会社法等			<b>関係する計画、通知等</b>	平成18年3月23日付け「法令外国語訳・実施推進検討会議」最終報告を前提とする翻訳整備計画等				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	国民生活や企業活動の基本的枠組みを定め、私法秩序の根幹を成す民法や会社法などの民事基本法を社会・経済情勢の変化に応じて適切に整備するため、民事法改正のための調査研究等の施策を実施し、民事基本法整備の円滑化を図ることにより、我が国の経済の活力の維持・向上に資することを目的とする。								
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	民法や会社法などの民事基本法の内容を国民にとって分かりやすいものとするともに、近年の社会・経済システムの急激な変化に適切に対処するため、外国の法制・実務について調査・研究を実施し、法整備を行う。 また、外国において我が国の法令が容易にかつ正確に理解されるため、法令の外国語訳を行う。								
<b>実施方法</b>	直接実施、委託・請負								
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	83	90	86	86	123		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		83	90	86	86	123		
	執行額		71	75	67				
	執行率(%)		86%	83%	78%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)		86%	83%	78%				
<b>令和3・4年度予算内訳(単位:百万円)</b>	<b>歳出予算目</b>	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	庁費	82	119.7	庁費:法律改正等に伴う広報(パンフレット及びポスター)等経費の増、調査研究委託費の増 新たな成長推進枠:20					
	職員旅費	3	2.5						
	諸謝金	0.5	0.4						
	委員等旅費	0.5	0.4						
	計	86	123						
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	<b>定量的な成果目標</b>	<b>成果指標</b>		<b>単位</b>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	<b>中間目標年度</b>	<b>目標最終年度</b>
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
<b>根拠として用いた統計・データ名(出典)</b>	-								
<b>定量的な成果目標が設定できない理由及び定性的な成果目標</b>	定量的な目標が設定できない理由				定性的な成果目標と平成30~令和2年度の達成状況・実績				
	国民生活や企業活動の基本的枠組みを定め、私法秩序の根幹を成す民法や会社法などの民事基本法を社会・経済情勢の変化に応じて適切に整備するための施策を実施し、民法や会社法などの民事基本法整備の円滑化を図ることにより、我が国の経済の活力の維持・向上に資することを目的とするものであり、また、法整備は、社会・経済情勢の変化に応じて対応するものであることから、定量的な成果目標(いつまでにどの程度といった目標)を設定することが困難である。				民法や会社法などの民事基本法制の整備に当たっての課題を適切に検討する。 各年度において、民法や会社法などの民事基本法制の整備に当たり、現在有している諸課題について適切に検討した。				

の 設定 が 困 難 な 場 合	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		令和3年度においては、民法や会社法などの民事基本法のうち、会社法(株主総会における更なる電子的手段の活用等)のほか17件について、法整備に当たっての課題を適切に検討する。	課題検討数(法案準備数) なお、法整備は、社会・経済情勢の変化に応じて対応するものであることから、あらかじめ数年後の法整備に関する課題検討数を設定することは困難であるため、中間目標を設定していない。	実績	件	21	20	18	-	-	
		目標値	件	21	20	18	-	-			
		達成度	%	100	100	100	-	-			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	4年度活動見込			
	調査研究の実施件数	活動実績	件	2	4	4	-	-			
		当初見込み	件	1	1	2	2	-			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	4年度活動見込			
	民事基本法令の外国語訳数	活動実績	頁	198	141	300	-	-			
		当初見込み	頁	331	340	141	132	-			
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	4年度活動見込			
	法制審議会への諮問及び提出法案の件数	活動実績	件	5	4	4	-	-			
		当初見込み	件	-	-	-	-	-			
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込				
	X(予算執行額)÷Y(調査研究の実施件数)	単位当たりコスト	千円	3,294	3,987	4,045	6,659				
		計算式	X/Y	6,588千円/2		15,949千円/4		16,181千円/4		13,318千円/2	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込				
	X(予算執行額)÷Y(民事基本法令の外国語訳頁数)	単位当たりコスト	千円	16	11	5	22				
		計算式	X/Y	3,110千円/198頁		1,574千円/141頁		1,592千円/300頁		2,904千円/132頁	
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	基本法制の維持及び整備(I-1)									
		施策	社会経済情勢に対応した基本法制の整備(I-1-(1))								
	測定指標		定量的指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		-	実績値	-	-	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-	-	-		
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)						
		-	-	-	施策の進捗状況(実績)						
					-						
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係										
	-										

係	新 経 済 ・ 財 政 再 生 計 画 改 革 工 程 表  2 0 2 0	取組事項	分野:	-								
		KPI (第一階層)	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	2年度	3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
				成果実績	-	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-	-	-	-
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係												
<b>事業所管部局による点検・改善</b>												
		項 目			評 価	評 価 に関 する 説 明						
国 費 投 入 の 必 要 性		事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	民事基本法制の立法・改正が、社会や経済に与える影響は非常に大きい。						
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	法務省の所管する民事基本法制を整備する事業であり、地方自治体、民間等に委ねることはできない。						
		政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	政策目的の達成のために必要な事業である。						
事 業 の 効 率 性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	各種契約の締結に当たっては、業務の内容等を踏まえた上で、一般競争契約の方式により実施している。 なお、各国の民事執行法制等に関する調査研究業務の一般競争入札において一者応札となったが、当該案件については、政令で定められた期間以上の公告期間を設けた上で、ホームページ上に入札公告を掲載するなどして競争性の確保に努めている。 また、競争性のない随意契約となった案件については、複数年度を前提とした契約を締結していたことから、当年度において、前年度と同じ相手方と契約を締結したものである。						
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有									
		競争性のない随意契約となったものはないか。	有									
		受益者との負担関係は妥当であるか。			-	-						
		単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	一般競争入札を実施することにより、コスト削減に努めている。 なお、単位当たりコストが年度により変動しているのは、調査研究委託の内容・件数に応じて年度ごとの執行額が変動したことによるものであることから、単位当たりコスト等の水準は妥当である。						
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	-						
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	本事業の整備のために必要なものに限定している。						
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			○	不用率が大きい理由は、賃金職員の雇用日数が予定を下回ったこと等のほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う出張の中止により、旅費や出張に伴う経費に不用が生じたためであり、やむを得ないものである。						
事 業 の 有 効 性		緑越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-	-						
		その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			○	単価等の見直しを行っている。						
		成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	代替指標により、事業の妥当性の検証を行っている。						
		事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-	-						
関 連 事 業		活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	見込みに見合った実績を上げている。						
		整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○	社会・経済情勢の変化に応じた適切な民事基本法制の立法・改正が行われている。						
		関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			○	民事局は民事基本法制に関する整備を、刑事局は刑事基本法制の整備を対象としており、適切な役割分担がなされている。						
点 検 ・ 改 善 結 果	点検結果	本事業は、「事業の目的」に示すとおり重要な施策であることから、引き続き、事業を円滑に継続していく必要があるが、各実施事項について緊急性等を精査の上、実施した。										
	改善の方向性	調査研究や民事基本法令の外国語訳に係る単価・数量については、市場動向、過去の調達実績や類似調達事案等を踏まえ、これを適切に予算へ反映させることにより、一層の経費の節減を図っていくこととする。										

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外である。

行政事業レビュー推進チームの所見

現  
状  
通  
り

引き続き効率的な予算の執行に努められたい。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現  
状  
通  
り

本事業の実施に当たっては、引き続き、政令で定められた期間以上の公告期間を設けた上で、入札公告をホームページ上に掲載するなどして競争性を確保することにより、一者応札の解消に及び効率的な予算の執行に努めることとする。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	0015			
平成23年度	0014			
平成24年度	0015			
平成25年度	0001			
平成26年度	0001			
平成27年度	0001			
平成28年度	0001			
平成29年度	0001			
平成30年度	0001			
令和元年度	法務省 - 0001			
令和2年度	法務省 - 0001			

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

法務省  
67百万円

・民事基本法制の整備のための調査研究委託  
・各種パンフレット等の作成



【一般競争契約(総合評価)等】

A 公益社団法人商事法務研究会ほか  
67百万円

・民事基本法制の整備のための調査研究委託  
・各種パンフレット等の作成

費目・使途 〔「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載〕	A. 公益社団法人 商事法務研究会			B.		
	費目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	雑役務費	各国の民事執行法制等に関する調査研究業務	5			
	雑役務費	諸外国の生殖補助医療により生まれた子の親子法制に関する調査研究業務	5			
	雑役務費	主要先進国における子会社株主保護制度に関する調査研究業務	4			
	雑役務費	未成年者に父母の離婚を経験した子の養育に関する調査・分析業務	0.9			
	雑役務費	未成年者を養子とする普通養子縁組の実態に関する調査・分析業務	0.9			
	雑役務費	財産分与、離婚原因等の実態に関する調査・分析業務	0.9			
	計		16.7	計		0

## 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	各国の民事執行法制等に関する調査研究業務	5	一般競争契約 (総合評価)	1	98.9%	-
2	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	諸外国の生殖補助医療により生まれた子の親子法制に関する調査研究業務	5	一般競争契約 (総合評価)	3	97.7%	-
3	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	主要先進国における子会社株主保護制度に関する調査研究業務	4	一般競争契約 (総合評価)	2	91%	-
4	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	未成年者に父母の離婚を経験した子の養育に関する調査・分析業務	0.9	随意契約 (少額)	-	-	-
5	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	未成年者を養子とする普通養子縁組の実態に関する調査・分析業務	0.9	随意契約 (少額)	-	-	-
6	公益社団法人商事法務研究会	5010005018552	財産分与、離婚原因等の実態に関する調査・分析業務	0.9	随意契約 (少額)	-	-	-
7	グローディア株式会社	6010001093945	成年年齢引下げ広報用ウェブサイトの制作業務	5	一般競争契約 (総合評価)	4	84.4%	-
8	個人A	-	非常勤職員(立法作業に伴う事務補助)の雇用	4	その他	-	-	-
9	個人B	-	非常勤職員(立法作業に伴う事務補助)の雇用	4	その他	-	-	-
10	個人C	-	非常勤職員(立法作業に伴う事務補助)の雇用	4	その他	-	-	-
11	個人D	-	非常勤職員(立法作業に伴う事務補助)の雇用	3	その他	-	-	-
12	コニカミノルタジャパン株式会社	9013401005070	複写機の保守	2	随意契約 (その他)	-	-	-
13	コニカミノルタジャパン株式会社	9013401005070	複写機の賃貸借	0.1	随意契約 (少額)	-	-	-
14	日本加除出版株式会社	8013301009172	協議離婚制度に関する調査研究業務	2	一般競争契約 (総合評価)	2	75.5%	-
15	個人E	-	非常勤職員(立法作業に伴う事務補助)の雇用	2	その他	-	-	-
16	朝日梱包株式会社	9010601040880	会社法改正パンフレットほかの梱包発送	1	一般競争契約 (最低価格)	2	85%	-
17	朝日梱包株式会社	9010601040880	改正民事執行法パンフレットの梱包発送	0.6	一般競争契約 (最低価格)	2	85%	-